

医療専門職として働く社会人を対象とした多職種連携のための履修証明プログラムの開発

◎會田 雄一¹⁾、山内 一由¹⁾、関本 道治¹⁾、二宮 治彦¹⁾
筑波大学 医学医療系¹⁾

【目的】多職種連携医療専門職養成プログラム(CoMSEP)は、平成26年度文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」事業において、臨床検査技師を対象とした人材養成の取組として唯一採択された。これまで医学、歯学、看護学、薬学の各分野を支援する文部科学省の事業は実施されてきたが、臨床検査学を支援する事業は今回が初めてである。CoMSEPでは、大学が医療専門職の卒後教育・生涯教育を担う新たなしくみとして、臨床検査技師を含む医療専門職を対象とした多職種連携のための履修証明プログラム(以下、本プログラム)を開発した。本プログラムの目的は、チーム医療の意識を高め、実臨床の場で「連携」を実践できる医療専門職の養成である。

【方法】本プログラムでは、臨床検査学、放射線技術科学、理学療法学の授業をe-learningとスクーリングの形式で提供する。募集人員は11名、出願資格は業務に従事している医療専門職とし、提出された履修志願票と志願理由書を審査して履修生を決定する。e-learningは筑波大学の学習管理システムを活用している。一方、実際に履修生が大学に来て

行われるスクーリングは年4回実施され、年度末に開催される公開講座とともに履修生同士の交流の場となっている。公益社団法人茨城県臨床検査技師会会長には本プログラムの外部評価を依頼している。

【結果】平成28年度は第2期履修生19名(臨床検査技師7名、診療放射線技師5名、理学療法士7名)を受け入れた。学会では、1年間の履修を終えた第2期履修生のアンケート結果を報告するとともに、平成27年度の第1期履修生24名による「連携」の実際について発表する。

【考察】本プログラムは、学会や職能団体とは異なる枠組みで、自身の専門分野だけではなく、周りの職種の分野についても広く学ぶ機会になる。本プログラムを履修した医療専門職には、勤務先の部署を越えて、あるいは勤務先だけではなく地域医療において、多職種連携を実践することが期待される。本プログラムの開発は、大学がもつ教育資源を病院とシェアすることによって、新たな卒後教育・生涯教育のしくみを作り出せる可能性を示唆している。